

桃園地域座談会ニュース vol.2

平成 29 年 6 月 2 日、第 2 回「座談会」を開催しました。

前回の座談会から 3 ヶ月余り、地域では「こんなことがあったけど、どうしたらいい?」「心配な方がいるんやけど・・・」とたくさんの方があがり、情報共有や連携しながら、そのひとつひとつの「困ったな」「心配だな」に対応してきました。

2 回目の座談会は、まずはその報告からはじめました。

その中で、“認知症の方への対応”について日頃感じていることや考えていることを活発に意見交換できました。



「接し方や声のかけ方ひとつで、認知症の方の様子も変わる」
「困ることや関わりが難しいこともあるが、認知症という病気がそうさせていると思って接している」
「地域の行事を忘れてしまう方には、その都度お誘いしたり声かけしたりするようにしている」
「ご近所の方や商店の方が、『以前と様子が変わった』と気づいてくれることも多い」
「理解不足や偏見もまだまだある」
「知識を身につけて、支える人になることが大切」
「どんなふうに声かけすればいいのかを知りたい」

今後、ご近所の方や商店の方を含め、地域全体で認知症の知識・理解を深められるような取り組みを一緒に考えていくこととなりました。



また、「還付金詐欺の電話がかかってきた」という体験談もお話ししていただきました。地域の方が実際に体験したお話を聞くことで、より身近な出来事に感じ、詐欺被害を防ぐことができるのではないのでしょうか。

座談会で話し合われたことや地域の課題や取り組みなど、これから広く知ってもらいたいという声があがりました。